

# 平成23年度 学校経営の改革方針

鈴鹿市立箕田小学校

## 1 学校教育目標

心豊かで、明るく、実行力のある子の育成

## 2 目指す学校像

児童，保護者，地域から信頼され，活気のある学校

- ・確かな学力を身に付けた子
- ・思いやりの心を持ち、助け合う子
- ・心身ともに健康で、積極的に活動する子

## 3 現状と課題

(1) 確かな学力を身につけた子に関して

- ① CRT調査の結果をふまえ、共通理解をして取り組んできたこと。

<国語科>

- ・「話すこと，聞くこと」は，学年が進むにつれて，身につけてきている。
- ・「読むこと」は，話や文章を読み取ることが弱いので，音読や朝の読書活動を大切にする。

- ・「書くこと」は、漢字が正確に書けなかったり、ローマ字の読み書きが定着していないので、反復練習やローマ字を活用する場面を意図的に設定することが必要である。また、字数制限のある文章を書くことが苦手の児童が多い。

#### <算数科>

- ・量感がとらえられない児童が多く、『量と測定』の領域の中で、日常生活に関連した指導や具体物をつかった指導を大切にしたい。
  - ・文章題、応用問題が苦手であるため、文章を正確に捉えられる力の育成に努めなければならない。
- ② 長時間集中して授業や学習に取り組むことができない児童など、特別な支援を必要とする児童が各学年に在籍している。
  - ③ 学習内容の定着のための十分な反復練習の時間が確保できていない。

#### (2) 思いやりの心を持ち、助け合う子に関して

- ① 学校教育アンケートで、「通学団や縦割り班活動で年下の子のことを考えて行動しているか」の問いに、高学年の児童の92%が肯定的な回答であった。地区の児童を安全に並ばせて登校させた、また、異年齢の児童と一緒に楽しい遊びに導くなど高学年のリーダー性が育っている。
- ② 始業前、業間、昼休みの時間に運動場でドッジボールやハ

ンドベースボールで楽しそうに遊ぶ姿は日常的に見られるが、子どもたちの中には、自分にとって関わりやすい子を選び、同学年同士での上下関係や固定化した人間関係も生まれている。トラブルが生じた時、自分たちで解決しようとせず、教師に解決を求める姿をよく見かける。

- ③ 自己肯定感をもてない児童も少なくなく、自分の思いや考えを相手に分かるように伝えることができず、トラブルが発生し、衝動的に暴力的な行為に訴える児童がいる。

(3) 心身ともに健康で、積極的に活動する子に関して

- ① 毎月1回のあいさつ運動とあわせて、児童会が呼びかけるあいさつ運動により、多くの児童は元気よく朝のあいさつができる。日頃より自分からすすんであいさつできる児童を育てたい。
- ② 多くの児童が休憩時間になると運動場で体を動かして遊んでいる。
- ③ 校区には2か所の踏み切りや車両の通行量が多い道路を横切る交差点があり、交通ルールやマナーの指導を徹底する必要がある。また、まれに不審者情報がある。

## 4 中長期的な重点目標

- (1) 児童の学力の状況を多様な方法で把握・分析し、よりの確な教師の関わりについて充実した教材研究を行ったり指導の工夫を行ったりする等、日々の授業に生きる研修を深め、児童の学力向上に取り組む。
- (2) 教育活動全体を通して、同年齢はもとより異年齢間においても思いやりの心を持ち、助け合う子を育成し、一人一人が「学校が楽しい」と思える学級・学校づくりを進める。
- (3) 保護者や地域の声に耳を傾けながら、学校と保護者、地域が連携して、より生き生きと学校生活を送る子を育成する。
- (4) 児童に自分の身は自分で守ること、自分の心身の状態を把握し表現することを指導するとともに、学校、保護者、地域が連携して、児童の交通安全及び防犯上の安全の確保を図る。

## 5 本年度の行動計画

### ○ 確かな学力を身につけた子

<目標（手立て）>

- ・年度当初に国語科，算数科のC R T学力テストを実施し，その結果分析にもとづいた学力向上の取り組みをすすめる。
- ・授業力の向上を図るため，全員が年間1回は研究授業を行い，児童の多様な考え方を生かすための手だてについて研修を深める。また，日常の授業を互いに公開し合うことで研究成果の

共有化を図り，実践につなげる。

- ・体育科の授業では，楽しく取り組める補強運動や補助運動を取り入れながら，運動量の保障された授業の構築に努める。
- ・授業規律を確立し，学び合える集団に育てる。
- ・音読や計算など繰り返しの学習を意図的に単元構成の中に取り入れる。
- ・学習ボランティアの協力を得てきめの細かな指導の充実を図る。
- ・朝読書の定着や図書館環境の整備など児童の読書の習慣化を図る。
- ・特別な支援の必要な児童に対する指導や支援を全校体制で取り組む。

## ○ 思いやりの心を持ち、助け合う子

<目標（手立て）>

- ・通学団での集団登下校での関わりや縦割り班活動を学期に2回程度実施することで、異年齢同士の積極的な交流を図る。
- ・人権集会を実施し、全校規模による人権尊重の精神を育成する。
- ・教職員が人権をテーマにした授業を公開し、交流しあうことで人権感覚あふれる学校づくりに努める。
- ・できるだけ1日1回は担任する児童と話したり、日常的に言動を細かく観察したり、日記や作文をとおしてきめ細かな児童理解に努め、より適切なかかわりに努める。

## ○ 心身ともに健康で、積極的に活動する子

<目標（手立て）>

- ・ 課題をかかえる児童については、全教職員で共通理解し、協力して指導に当たる。
- ・ 児童が自分から進んで元気よく気持ちの良いあいさつができるような指導を工夫する。
- ・ 毎日、笛やブザーを携行させる根気強い指導をすすめる。
- ・ 交通ルールやマナーの大切さを知り、自転車に乗る時はヘルメットをかぶるように指導する。

# 確かな学力の育成

- ①学力向上 ②授業力の向上
- ③運動量の保障された授業の構築
- ④学び合える集団 ⑤きめの細かな指導の充実
- ⑥児童の読書の習慣化

## 具体的な取り組み

- ①年度当初に国語科，算数科のCRT学力テストを実施する。
- ①音読や計算など繰り返しの学習を意図的に単元構成の中に取り入れる。
- ②全員が年間1回は研究授業を行う。
- ②日常の授業を互いに公開し合う。
- ③体育科の授業では，楽しい補強運動や補助運動を取り入れる。
- ④授業規律を確立する。
- ⑤学習ボランティアの協力を得る。
- ⑥朝読書の定着や図書館環境の整備を進める。

# 思いやりの心の育成

- ①異年齢の交流
- ②人権尊重の精神の育成
- ③きめ細かな児童理解
- ④一人ひとりが大切にされる仲間づくり

## 具体的な取り組み

- ①通学団の指導や縦割り班活動(学期に2回)の実施。
- ②人権集会を実施する。
- ②人権をテーマにした授業を公開する。
- ③日常的に児童の言動を観察したり，日記や作文をとおしてきめ細かな児童理解を行う。
- ④学校行事や児童会活動に主体的に参加し，達成感の味わえる取り組みにする。

# 健康な心と体の育成

- ①全校で協力した生徒指導
- ②自らを守る心の育成
- ③交通ルールやマナーの大切さ
- ④家庭や地域との連携強化

## 具体的な取り組み

課題を抱える児童については、全教職員で共通理解する。

- ①児童が自ら進んで元気よくあいさつができるように継続した朝のあいさつ運動の実施や児童会主催の運動の実施など指導を工夫する。
- ① 参日，笛やブザーを携行させる根気強い指導を進める。
- ② 転車に乗る時はヘルメットをかぶるように指導する。
- ③ 児童に気になることがあれば，早急に家庭と連絡をとり対応する。家庭訪問の実施。
- ④ 学校通信，学年(学級)通信や保健だよりなどで，学校の様子を保護者や地域に知らせる。